



令和 2 年・新たな夢・目標に向かって

校長 山崎 泰央

令和 2 年の幕開けにあたり、新年のお慶びを申し上げます。今年の干支「子（ねずみ）年」は、昔から繁栄の年と言われます。皆様にとってこの一年が幸多き年になるようにお祈り申し上げます。

さて、本校の教育目標は「夢に向かってのびる杉っ子」ですが、私は、機会ある毎に子どもたちに、夢や目標を持ちそれに向かって日々努力する生き方をしてほしいと話してきました。特に新年は、新たな夢や目標を持って頑張れるチャンスです。そこで、全校集会で、鳥取県出身の第 53 代横綱「琴櫻関」の話を紹介しました。

「中学生の頃、父親が紀雄少年（琴櫻）に、『千メートル先にある神社まで裸足で走って行き、五百段ある石段を何回上下したか報告しなさい。だれも見ていないからごまかしはきく。しかし、自分のなまけ心に負けるな。』と言いました。紀雄少年は、雨の日も風の日もその言いつけを守り続け、そのおかげで自分から進んで苦しいことやつらいことに立ち向かっていくようになったといいます。また、スポーツ万能の紀雄少年が苦手だったのは、漢字を覚えることでした。先生から『漢字の読み書きができるということは、知識を増し、心を磨くために大切なことだ。』と諭されると、放課後の漢字練習で友達がふざけていても、一人机に向かい一心に練習し、成績も上がっていったそうです。」

これらのエピソードから、自分が一旦やると決めたことをやり遂げる精神力の強さに感銘を受けます。そして、苦手なことにも立ち向かう粘り強さがいかに大切かを教えられます。本校の子どもたちの中にも、大きな夢を持ってスポーツを続けている子ども、かけ算九九名人や読書名人をめざして毎日こつこつと頑張っている子どもなど、小さな琴櫻関がいっぱいいます。私はその姿に接し、いつも応援しています。

また、いよいよ今年は、自国開催のオリンピック・パラリンピックイヤーです。わくわくしながら開幕の時を待っておられる方も多いと思いますが、私もその一人です。ドキュメンタリー番組などを見ると、オリンピックに向けてどの選手も、自分の可能性を信じ、プレッシャーをはねのけ、自分の限界を超えようと挑戦しています。自分の精神力と闘いながら、たゆまぬ努力を繰り返す姿にいつも感動します。子どもたちにも、それらの姿から、「自分がめざしたいものは何だろう。」「努力をするってどういうことだろう。」「誰だってプレッシャーに押しつぶされそうになることはある。」など、学んでほしいと思います。

3 学期は、卒業や新しい学年に向かうための大切な準備の時です。学習内容をしっかりと定着させるとともに、支え合う仲間作りや凡事徹底「み・そ・あ・じ（名札、あいさつ、靴揃えや黙働清掃、廊下歩行等）」に一層力を入れていきたいと思っています。そして、子どもたち一人一人が夢や目標実現に向かってステップアップできるよう、私たち大人も後押ししたいものです。

保護者の皆様、地域の皆様、本年も子どもたちの成長を見守り本校教育へのご理解とご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。